

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1. 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>			一人当たり十分なスペースを確保している。 また活動に応じて児童が課題に向かいやすいように工夫している。
	2. 職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>			十分な人員の確保ができています。
	3. 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>			車椅子を購入し、万が一歩行困難になってしまった場合にも対応可能になった。
業務改善	4. 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>			日々の情報交換の中で子供に合わせた目標設定と振り返りをしている。
	5. 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、それを業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			保護者向けにアンケートを実施し、改善に努めている。
	6. 当自己評価表を事業所の会報やウェブサイト等で公開しているか。	<input type="radio"/>			弊社のホームページにて掲載している。
	7. 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			<input type="radio"/>	
	8. 職員の資質向上を図るため、研修の機会を確保しているか。	<input type="radio"/>			法人内、他団体主催の研修などに積極的に参加している。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	9. アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析。そのうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	10. 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○			
	11. 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			メイン、サブの支援員で計画をたて、振り返ることで、より良い支援を目指している。
	12. 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			身につけたい力を確実に鍛えるために、ビジョントレーニング、微細運動、粗大運動、手先の活動、プリント活動という項目は毎日継続している。64パターンある身体作りの活動をローテーションにしたり、同じ内容でも難易度を変えるなどしてワクワクするように工夫したり、毎日同じ内容にならないよう意識している。指先運動、感覚遊びなどの内容も日々新しいものを取り入れようと意識している。
	13. 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	○			平日は限られた時間の中で、目のトレーニング、目と体の協調生に特化した取り組みを実施し、休日は公園や広い敷地で思いっきり体を動かし、ストレスを発散している。長期休みは「楽しい、ワクワク感が脳を育てる」という認識のもと、体験、工作、様々な方面から季節ごとに新しい企画を提供している。
	14. 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	15. 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○			
	16. 支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○			
	17. 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			支援の記録を保存し、振り返りを行っている。
	18. 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービスけいかくの見直しの必要性を判断しているか。	○			
19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか。	○				

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
関係機関や保護者との連携	20. 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○			
	21. 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	22. 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。				
	23. 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。			○	
	24. 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。		○		現在まで該当者なし。
	25. 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	○			
	26. 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	○			
	27. (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	28. 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共有理解を持っているか。	○			
29. 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。	○			日々の様子を共有する中で、保護者の悩みなどに寄り添い、理解に努めている。必要に応じて助言を行っている。	
保護者への説明責任等	30. 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	31. 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			
	32. 父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。			○	保護者のニーズを確認した上で、実施に向けた検討を行う。
	33. 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知。苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	34. 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	35. 個人情報に十分注意しているか。	○			プライバシーマーク取得済み。
	36. 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	37. 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。			○	方法を精査し、検討していく。
非常時等の対応	38. 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	○			
	39. 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。	○			火災、地震、洪水などを想定して訓練を実施している。
	40. 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	41. どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			組織的にやむを得ず身体拘束を行う場合を決定し、共有している。
	42. 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか。		○		食物アレルギーのある児童の利用なし。
	43. ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○			